巻頭特集

あかりと錦色が魅せる幽玄の世界でほっと、一息

穴弘法もみじと100地蔵のライトアップ今年も開催へ

新型コロナウイルス感染症によるイベントの自粛が相次ぐ中、感染予防対策を徹底したうえで実施を決心したのが、穴弘法（あなこうぼう）もみじと100地蔵のライトアップだ。鮮やかに浮かび上がる逆さ紅葉や岩穴に鎮座する104体の地蔵、繊細な模様の竹あかりが作り出す幻想的な光景は、コロナで疲れた心を癒してくれる。

穴弘法と関わりの深い土岐高山城跡の歴史

今年で19回目を数える穴弘法もみじと100地蔵のライトアップ。開催場所となる穴弘法は土岐高山城跡の麓、南宮神社の奥にある。

土岐高山城は鎌倉時代に起きた承久の変のころ、土岐氏一族のひとり、高山秀頼が築城したと伝わっている。土岐氏一族は清和天皇の子孫、清和源氏の流れをくむ。各地域に土着し、武士として活躍した清和源氏からは、鎌倉幕府を開いた源頼朝をはじめ、室町幕府の初代将軍足利尊氏、甲斐の武田信玄など、誰もが知る歴史上の人物が数多くあらわれている。美濃国で勢力を伸ばしたのが土岐氏一族で、NHK大河ドラマ「麒麟がくる」の主人公、明智光秀はこの出身という説がある。

土岐高山城跡の周辺には、土岐氏一族の祖とされる土岐光衡が一時居館とした大富館や、その子光行による浅野館があり、館跡を示す石碑が残っている。土岐高山城はこれらを守護するための要塞という役割を果たしたという。戦国時代には武田信玄の子、勝頼の東美濃攻めの舞台となり、織田信長の支援を受けた時の城主平井頼母は700人の軍勢で、1万2000人を擁する武田軍と戦った。その後関ケ原の戦いの後の1615年、一国一城令により廃城となっている。

ライトアップに託される穴弘法誕生の背景

美濃の地の移り変わりを見つめてきた土岐高山城にとって、穴弘法はどのような位置づけだったのか。高山城高山宿史跡保存会の後藤清さんに話を聞くと、「高山城の武将を弔う墳墓が存在したと考えられます」と教えてくれた。「源氏同士交流のあった鎌倉には、武士が亡くなると、岩をくりぬいてお墓を作る『やぐら』と呼ばれる風習がありました。石仏が安置されている岩壁の洞穴は、この風習が伝わってできたものなのでしょう」

穴弘法に再び光が当たるのは、数百年後のこととなる。江戸時代前期の1688年、武田信玄の玄孫（やしゃご）、雲峰元沖は古城山慈光院（黄檗宗）を開山。「京都から郷里への戻り道、この地を見た雲峰元沖は、美濃攻めの犠牲となった武将や農民町民を供養しなければと感じたのでしょう」と後藤さんは推測する。

慈光院は2代続いたのち廃寺となるが、明治末期になり、古城山遍照閣（真言宗）として地元の人々によって再興された。昭和になると跡継ぎがおらず、現在は再び廃寺となっている。

穴弘法もみじと100地蔵のライトアップでは、開会式の際に先祖供養を執り行う。観光集客による地域の活性化だけが目的ではない、先祖を弔うという穴弘法の在り方が開催の背景にはある。

今年は11／16（月）～23（月・祝）コロナ禍ならではの企画も

ライトアップを主催するのは土岐里山の会。今年は中止になってしまったが、土岐高山城跡の桜並木ライトアップも、里山の会が担っている。秋のライトアップは第1回から今年で20年近く、来訪者は1週間で7000人を数えるまでになった。山の整備や、環境を意識したLEDライトの導入、穴を空けた竹にあかりを灯す「竹あかり」の設置など、工夫を重ねながら地道に活動を継続してきた結果だ。

今年は例年と違い、大型行灯の展示に携わってきたときつこども園の参加中止、竹あかりの設置数の削減など、規模を縮小したうえでの実施となる。例年通り行えないのが残念ではあるものの、今年だからこその企画もある。土岐里山の会の会長、安藤学さんは、「入口の堤に設置しているウェルカムメッセージには、コロナ退散の願いを込めます。先祖供養の祈祷でも、コロナの終息を願ってもらいます。開催にあたって躊躇しましたが、美しい景色で、コロナで疲れた皆さんの心を癒せたらうれしい」と笑みを見せる。

まだ緑が濃い10月上旬、穴弘法を訪れると、虫の声と水音が響くのみで、静寂が広がっていた。飛沫防止と思うと幸いかもしれないが、ライトアップと共に、この心地よい空気を楽しむためだと思えば、きっと静かに鑑賞できるだろう。

ライトアップに合わせて、毎年野外コンサートを開催。今年も何らかのイベントを企画中で、写真の土岐高山城戦国武将隊は出演予定

土岐里山の会
会長
安藤 学さん

高山城高山宿史跡保存会では副会長を担う。「活動を続けられたのは、地域の歴史を後世に伝えていきたいと思ったから」と語る言葉からは、地域に対する愛情を感じさせる

高山城高山宿史跡保存会
参事
後藤 清さん

岐阜大学地域協学センターの現地コーディネーターも務め、高山宿の歴史に詳しい。土岐市の教育文化の向上に貢献したとして、令和元年度の二宮文化賞に輝いている

映えスポット❹

夜景

土岐高山城跡から市内を一望できる。穴弘法から歩いて5分ほどなので、ぜひ足を伸ばしたい

映えスポット❸

竹あかり×地蔵×紅葉

右）紅葉、地蔵、竹あかり、3つが揃った画をぜひおさえたい　左）地蔵は全部で104体。子宝祈願など、それぞれ込められた思いは異なり、形の違いにもそれがあらわれている

映えスポット❷

ウェルカムメッセージ

池の堤に置かれたウェルカムメッセージが来訪者を出迎える

映えスポット❶

逆さ紅葉

LEDライトに照らされた紅葉が、池の水面に美しく映し出される

information

穴弘法もみじと100地蔵のライトアップ

［期間］
11/16（月）～11/23（月・祝）

［時間］
18:00～20:00（土日祝日は21:00まで）
※雨天の場合はライトアップ中止

［場所］
土岐市土岐津町高山48

［駐車場］
穴弘法30台、バロー駐車場100台、土岐川河川敷臨時駐車場70台

［問］
土岐津町まちづくり協議会
☎0572-55-0112
※新型コロナウイルス感染症の状況によって、大幅に変更する可能性があります

〈来訪の皆さんへ〉
新型コロナウイルス感染症対策へのご理解とご協力をお願いします

- ■ マスクの着用
- ■ 受付での検温、アルコール消毒
- ■ ソーシャルディスタンスの確保

文／髙崎千紗登　写真提供／土岐里山の会　デザイン／chica　参考文献／『高山城高山宿歴史探訪』（2019年12月 高山城高山宿史跡保存会）